

千秀だより

横浜市立千秀小学校

2月号

平成27年(2015) 2月 2日



寒さの中花は咲く

校長 市川 幸男

大寒が過ぎましたが寒さは変わらず厳しい状況です。そんな中、毎朝、子どもたちが手袋をはめ、白い息をはきながら登校してくる様子を見てみると、「もう少して春だ、がんばれ。」と書いてしまいます。しかし、「子どもは風の子」とは、上手く言ったものです。冷たい風をものともせず、校庭を走り回る子どもたちを見てみると、こちらまでそのエネルギーをもらえそうな気持ちになります。まだまだ厳しい寒さが続きます。本校でも風邪やインフルエンザ流行の兆しが見られます。「うがい」「手洗い」は勿論、睡眠や栄養をしっかりととり、体調管理に心がけてほしいと思います。

さて二月。今年度も残すところ2ヶ月となりました。寒い寒いと縮こまっていたはいけないと思い、校庭をを散策しました。するとどうでしょう、寒風の中、早咲きの紅梅が今を盛りと咲き誇っています。足下には水仙の花が咲き、木蓮の枝のつぼみが膨らみ始めています。春の兆しが少しずつ見え始めるようになっていました。そんな事を思いながら、散策を続けると、1年生が育てている鉢植えのチューリップやヒヤシンスに出会いました。チューリップの球根は、秋に花壇に植え込みます。その時、すでに球根の中に小さなつぼみができあがっています。このつぼみは、花が終わった1ヶ月後にはできあがり、翌年の春まで、そのまま辛抱して伸びずに冬を越します。チューリップは、冬が寒いから花の茎が、伸びないのではありません。その証拠として、温室であたたかくしても茎は伸びてきません。チューリップは、一度冬の寒さにさらされると次にくる春を感じないのです。ですから、チューリップを早く咲かせるには、人工的に冷蔵庫などで冷やし、寒い冬の試練を経験させる必要があるのです。子どもが将来に、大きな花を咲かせるには、人にとっての寒さ（厳しさや辛さ）が多少必要な経験かもしれません。是非、6年生は残り少ない小学校生活の中、自らに厳しくし、将来への準備期間として欲しいと思います。在校生は、チューリップが早い時期から球根の中で、つぼみの準備をするのと同じように、小学校での学習や生活を通して学び、生きる力を積み重ねてほしいと思います。この一年で、本は何冊読めたでしょうか？学校の授業に真剣に取り組み、学力がついてきたでしょうか？学級での係や委員会活動をやり遂げ、成長ができたでしょうか？一人ひとりが、目標を実現を目指し、一生懸命努力を続ける姿勢はとても大切です。140年に及ぶ長い歴史の中、脈々と流れる「千秀魂」の心を合言葉に、この寒い厳しさに耐え、みんなで春を迎えていきたいと思っています。

さて、今月中旬には「千秀フェスティバル」が開催されます。子ども達が生活科・総合的な学習の時間（ゆりの木タイム）で重ねてきた学習の成果を、互いに発表し合い、その成果を認め、深め合う機会です。是非とも多くの方にご来校いただき、子ども達にお声かけいただきたいと存じます。また、当日は恒例となっております地域の方の美術・工芸作品も展示させていただきます。よろしくご参加いただけますようご案内申し上げます。